

就職試験 ジャーナル

第43巻 臨増3号
2022年3月7日発行

特集

エスピーアイ

適性検査・SPI 対策～試験の概要と早期準備のすすめ～

企業の採用試験では、応募者の能力や性格を把握するために、主観に左右されず、客観的な指標となる適性検査を実施するケースが多い。適性検査には多くの種類があるが、中でも「SPI」は高卒採用試験でも実施率が高い。他社の適性検査の中には「SPI」に類似しているものが多いため、適性検査対策をするならば「SPI」対策をしておくといよい。

今回は、適性検査の概要を紹介するとともに、2年次からの早期対策について「SPI」を中心に考えてみたい。

かっている。それぞれの適性検査がどの程度の企業で実施されているかも不明である。ただし、ある企業が採用試験にどの適性検査を実施するかは、求人票に書かれている場合がある。また、毎年同じ適性検査を実施している企業が多いので、過去の受験報告書が参考になる場合がある。受験した生徒には、できる範囲で、出題内容を報告させるように指導したい。

採用試験における適性検査

採用試験で行われる適性検査は、志望者がその企業の仕事内容に適応でき、十分に能力を発揮することが可能かどうかを見極めるために行われ、採用を決定する際の重要な判断材料になる。

●適性検査の種類

採用試験における適性検査は、主に能力検査と性格検査に分けられる。どちらか一方だけを行う企業もあれば、両方を実施する企業もある。

また、適性検査は、多くの種類のもので制作されているが、採用試験を行う企業は、その中から自社にあったものを選んで実施している。SPI、一般職業適性検査、クレペリン検査が有名だが、他にも多種の検査があり、内容もさまざまである。事務職採用向け、運転手採用向けなど、職種に応じた内容の検査もある。

●適性検査の実施状況

採用試験における適性検査の問題は、公開されていないため、それぞれの内容ははっきりとわ

主な適性検査の概要

●SPI

SPI（現在はSPI3）は、リクルートが提供している適性検査である。仕事をする上で必要とされる資質を総合的に測定しようとする検査で、人材採用時だけでなく、入社後の適材適所を目標とした配属先の資料として活用される場合もあるようだ。全国で年間1万3,500社、受験者数約203万人（2020年度実績：リクルートのホームページより）と、多くの企業の採用試験で実施されており、この分野でのシェアは国内トップといわれている。

以前は大企業とその関連会社、対象は大学生がメインだったが、近年は中小企業や新興企業にも広がり（リクルート公表：約65%が従業員300人未満の中小企業での利用）、高校生の採用試験においても利用が増えている。また、公務員試験においても、SPIを実施する自治体が市役所を中心に増えている。

SPIは、大きく分けて能力検査と性格検査に分けられる。能力検査では、企業の業務で要求されるコミュニケーション能力、数的処理能力や論理的思考能力などが測られる。受験対象や測定内容によっていくつかのタイプがあるが、高校生対象

の採用試験では、主に SPI3- H という検査が使用されている。問題内容は、小学校・中学校で習う国語、数学(算数)の基本的なものが中心であるが、SPI 独特の形式を持つ問題も出題される。

性格検査では、企業の求める人材かどうかの判断基準となる受検者の考え方や行動パターンを行動的側面・意欲的側面・情緒的側面・社会関係の側面から測定する。

●一般職業適性検査

採用試験で用いられる一般職業適性検査とは、厚生労働省編集の適性検査である。円打点、計算、名詞比較、形態照合、記号記入、文章完成など、さまざまな検査で構成されている。かなりやさしい問題がほとんどだが、解答時間が短く、問題数は多いので、すばやく、正確に多くの問題を解くことがポイントになる。

●クレペリン検査

クレペリン検査にはいくつか種類があるが、代表的なものには内田式クレペリン検査などがある。クレペリン検査は、1ケタの数字の足し算を続けて行うという単純な作業を続ける検査である。その結果を基に、受検者の能力や、作業時の性格・行動の特徴を測定する。全体の計算量を基に能力を測定し、1分ごとの計算量の変化(作業曲線)、足し算の間違いを基に性格・行動の特徴を測定する。計算量が多い方が能力は高く評価されるので、すばやく、正確に作業をすることが重要である。

●その他の適性検査

「CUBIC」^{キュービック}、「SCOA」^{スコア} という適性検査も徐々に増えてきている。「CUBIC」は言語、論理、数理、図形、英語の科目があり、基礎編、応用編など難易度が設定されており、企業の目的に合わせて組み合わせることができる。

「SCOA」は、知的能力や学力、事務能力を判定する検査などがあり、基礎的能力を測る検査は言語、数理、論理、英語、常識(社会・理科から出題)の5分野で構成されている。

そのほかさまざまな種類の適性検査があるが、情報が乏しく、どのような内容なのかよくわかっていない。高卒を対象とする適性検査では、基

資料●SPIの構成

能力検査	①言語分野 言葉や文章の意味・構成・要旨を的確に理解する力
	②非言語分野 獲得した情報を基に的確な判断を導き出すなどの力
性格検査	

礎的能力を測定するものが一般的なもので、小・中～高校で履修した各科目の基礎をしっかりと復習し、対策問題集などで練習するように指導したい。

SPI能力検査対策

高卒採用試験でも実施する企業が増えている SPI について、細かく解説したい。特に、事前準備の必要な能力検査について、対策法を紹介する。

●能力適性検査の構成

SPI は大きく能力検査と性格検査に分かれる点は前述した。そのうち、性格検査は性格特性を測定する検査であり、素直に飾らず答えるものなので、本番で戸惑わないよう、1 回程度市販の検査を実施すれば充分である。

一方、能力検査については、難問というような問題は出題されていないが、独特な出題形式を持つ問題が含まれているので、問題形式を事前に知っておくことが大切である。問題集の活用や、試験慣れのためにも、模試の実施などによる事前準備が高得点に結びついてゆく。

能力検査(ペーパーテストの場合 70 分)は、言語分野、非言語分野に分けられ、以下のような構成となっている。

①言語分野

- ・実施時間 30 分 / 50 ~ 55 問程度
- ・5 ~ 6 つの選択肢からの択一式

国語的分野に関する出題である。企業の業務では、折衝や意思の伝達、文書作成等、言語を通しての活動が多いため、どのような仕事をする上でも必要とされる言語的理解力がどの程度備わっているかを測定する。

具体的には、対義語・包含関係といった語句に関する問題、要旨の理解や接続詞を問う長文読解等により、基礎的な語彙力や文章理解力を試す問題が出題される。

SPI能力検査攻略の基本の3Step

最後に、SPIの能力検査の攻略に向けて、指導のポイントを3段階に分けて紹介する（オススメの教材は、いずれも実務教育出版刊行）。

Step1 ● 中学までの国、算・数の基礎固め

まずは、正答を導き出すために必要な基礎知識を認識し補強することが大切である。

【言語分野：国語】

漢字や熟語、語句の意味を覚えること、文章の要旨をとらえる力をつけさせることが必要になる。新聞や本を読ませたり、作文を書かせたりなど、さまざまな文章に触れる機会を増やすことで語彙力、読解力を養成できる。

【非言語分野：算数(数学)】

難しい公式は必要ないが、小・中学校段階で学習したレベルの公式をすっかり忘れてしまうと大きな差が出てしまう。したがって、高校前段階に学習した基本的な知識の復習が大切になる。

小・中学校段階で履修したものは広範囲にわたるため、出題傾向に絞り込んだ教材を活用することで、学習を効率的に進めることができる。

《基礎固めにオススメの教材》

『ステップアップ 国・数・英』

『ステップアップ 国・数・英 Next』

『わかる！とける！基本の数学』

『はじめて学ぶ SPI 入門問題集』

『高校用 SPI 入門テスト』

Step2 ● 出題傾向に慣れる

1問1問はそれほど難しい問題ではないが、通常の学校の試験などでは出題されないような独特なパターンを持つ問題が含まれている上、試験時間の割に問題数が多いため、数多くの問題を解いて慣れさせることが成果を上げる秘訣である。言語分野の長文読解も丁寧に読めば解答できるレベルなので、慣れさせることがポイントになる。

《出題傾向への慣れにオススメの教材》

『基礎から学ぶ SPI ベーシック問題集』

『高校用 SPI 基礎テスト』

Step3 ● 応用力と解答スピードを身に付ける

SPIで高評価を得るためには、言語分野30分・非言語分野40分という限られた時間をいかに有効に使えるかがカギとなるので、解答スピードを上げることが不可欠になる。解法を身に付けることであっさりとして解けてしまう問題も多いため、傾向に沿ってまとめられた問題集による練習を重ねることで、時間内で解く力を高めることができる。

また、同じテーマの問題でも、切り口によってはまったく違うテーマの問題に見えるので、いざという時にうろたえさせないよう、さまざまな問題に取り組みさせて、応用力・実戦力をつけさせることが大切である。

《実戦力をつけさせるのにオススメの教材》

『実戦レベルで学ぶ SPI 対策問題集』

『高校用 SPI 対策テスト』



今号の
イチオシ教材

「SPI」性格検査・さまざまな適性検査対策に役立つ教材をご紹介します。
就職試験対策がより万全なものとなります。

就職に向けた性格検査 GET

実施時間● 30分（配布・回収・説明等の時間を含む）

標準採点期間● 10日間

受検料● 450円（採点料・税込）

自己理解を深め、性格検査の体験もでき、
模試・テストと併せてのご実施が効果的です。

一般常識&適性検査ベーシック

体裁● B5判・79ページ

別冊● 正答と解説／確認テスト（1回40分・2回分）

定価● 640円（税込）

《一般常識編》と《適性検査編》の2部構成。
さまざまなタイプの適性検査について学べます。

★ご検討用実物見本を無料進呈！お気軽にご請求ください。☎ 03-3355-1801 実務教育出版 教育教材事業部

『就職試験ジャーナル』
バックナンバーについて

本年と前年の『就職試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ（www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/）より、「活用情報（モデルプラン・指導情報など）」→「指導情報」をご覧ください。